

群馬県キャベツIPM実践指標

(普及指導室)

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
防除計画の作成(必)	栽培開始前に、年間の具体的な病害虫防除計画を作成している。	1			
健全種子の確保(必)	消毒されている種子を使用している。消毒されていない種子は農家の種子粉衣等の処理を行っている。	1			
適正な品種の選定	萎黄病抵抗性品種を選択している。また、パーティシリウム萎凋病の発生ほ場では、作型と品質を考慮しながら抵抗性が高い品種を選択している。	1			
健全苗の育成(必)	前作での病害・雑草の発生のない育苗ほ場を選択している。セル成型育苗苗では、市販育苗土など病原菌による汚染がなく、雑草種子の混入していない用土を用いている。地床育苗では、土壌消毒を行っている。	1			
	品種の特性に応じて、適正な播種量、施肥量等を守り、病害が発生した場合は速やかに処分している。	1			
	育苗中は過度の灌水を避けるなど、高温多湿にならないようにしている。	1			
育苗施設や育苗ほ場は、防虫ネットやアルミ蒸着テープ等の反射資材の利用等の物理的防除手段により、害虫の発生を抑制している。	1				
栽培ほ場周辺での雑草管理(必)	ほ場への雑草種子の持ち込みや雑草を発生源とする害虫の飛び込みを抑制するため、畔等の雑草防除に努めている。	1			
ほ場の選択と改善(必)	水はけの良いほ場を選択し、低湿地のほ場での作付けは避けている。やむをえず排水の悪いほ場に作付けする場合は高畦としている。	1			
土壌のpHの矯正(根こぶ病対策)	土壌pHを測定し、pHが低い場合には石灰質資材を施用して土壌pHを矯正している。	1			
有機物の施用	ほ場に有機物を施用する場合は、未熟なものの施用を避けている。	1			
施肥	必要に応じて土壌診断を受け、診断結果を参考にして適切な施肥を行っている。	1			
雑草の管理(必)	植え付けまでに雑草が発生した場合は、種子の結実前に耕起耕転を行っている。多年性雑草は、地下茎まで抜き取り、適切に処分している。	1			
	前作及びほ場での雑草の発生状況、草種等を確認し、適切な除草剤を選定し処理している。	1			
	株元かん水を行うなどしてスムーズに苗を活着させ、外葉が早く地表を覆うようにしている。	1			
中耕や培土は、定植後キャベツの外葉が大きくなるまでの雑草の小さい時期に行っている。キャベツより草丈が高くなる雑草は早めに手取り除草している。	1				
性フェロモン剤の利用	集団化しているほ場では、地域全体で性フェロモン剤を処理し、交信攪乱による地域全体の害虫の発生密度抑制を図っている。	1			
定植(必)	品種や作型に応じた適正な栽植密度としている。	1			
	病害の発生が懸念される場合は、当該病害の発生しにくい時期に作付けを行っている。高冷地におけるパーティシリウム萎凋病は、8~9月収穫の作型が発病適期となるため、発生が懸念される場合は7月収穫や10月以降収穫の作型にしている。	1			
	定植期に農薬を施用し、少量の薬剤でその後の病害虫の発生を有効に抑制している。	1			
病害虫発生予察情報の確認(必)	病害虫防除所が発表する発生予察情報入手し、確認している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報入手し、防除の要否を検討している。	1			
病害虫防除の要否の判断(必)	ほ場内を見回り、病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除の要否を判断している。土壌病害では、前年の発病程度から防除法を決定している。	1			
生物農薬の利用(必)	適用のある害虫に対して、BT(バチルス・チューリングエンシス)剤やボーベリア・パシアナ剤などの微生物農薬を有効に活用している。	1			
	適用のある病害に対して、非病原性エルビニア・カロトボーラ剤、シュドモナス・フルオレッセンス剤などの微生物農薬を有効に活用している。	1			
農薬の使用全般(必)	抵抗性の発達を防ぐため、特定の成分の農薬を繰り返し使用していない。	1			
	風の強さ・風向きに注意するとともに、散布圧力、散布の位置・方向、ノズルの選定など適切にし、農薬の飛散防止に努めている。	1			
ほ場衛生(必)	発病株は、発見次第、早期に抜き取ってほ場外に出し、適切に処分している。	1			
	根こぶ病等の土壌伝染性病害発生ほ場からの汚染土壌の拡散を防ぐために、これらのほ場から移動する時は、靴や作業機に付着した土をよく落とす。	1			
	細菌病の発生を抑制するため、降雨直後の作物管理作業を避けている。	1			
同一ほ場でのアブラナ科野菜の連作は避け、輪作や田畑輪換を行っている。間作や輪作作物として、菜ダイコン(根こぶ病対策)、野生エンバク(根こぶ病対策、パーティシリウム萎凋病を助長するネグサレセンチュウ対策)など土壌病害虫の密度を低下させる作物を栽培している。	1				
風食・土壌流亡の防止	冬期緑肥作物等の作付けによる春期の風食防止や、傾斜圃場下部へのグリーンベルトの設置による土壌流亡の防止に努めている。	1			
収穫後残渣の処理(必)	収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。	1			
作業日誌(必)	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況作業日誌として別途記録している。	1			
研修会等への参加(必)	県や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。	1			
		合計 点数			
		評価 結果			

群馬県ネギIPM実践指標

(普及指導室)

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
防除計画の作成(必)	栽培開始前に、年間の具体的な病害虫防除計画を作成している。	1			
健全種子の確保	病害発生予防のため、消毒された種子を使用している。	1			
栽培ほ場周辺での雑草管理(必)	ほ場への雑草種子の持ち込みや雑草を発生源とする害虫の飛び込みを抑制するため、ほ場周りの雑草防除に努めている。	1			
健全苗の確保	前作での病害・雑草の発生のない育苗ほ場を選択している。チェーンボット栽培では、病害虫の発生を予防するため、育苗には病原菌に汚染されていない培養土や資材を用いている。地床育苗では、土壌消毒を行っている。	1			
	健全な苗の育成のために、適正な播種量、施肥量を守り、育苗中は過度なかん水进行を避けるなど高温多湿にならないようしている。	1			
	育苗施設や育苗ほ場への害虫侵入を抑制するため、施設開口部のネット被覆、粘着トラップの設置、シルバーフィルム等の反射資材の設置などの、物理的防除手段を講じている。	1			
	育苗中に病害虫の発生が見られたら、早期に防除、除去し、健全苗のみを定植している。	1			
ほ場の選択と改善	作物の栽培に適した水はけの良いほ場を選択している。排水の悪いほ場に作付けする場合は、高畦とする等対策を講じている。	1			
作物の栽培管理	必要に応じて土壌診断を受け、結果を参考にして適切な施肥を行い、過剰施肥を避けている。また土壌pHを測定し、適正な土壌pHに矯正している。	1			
	ほ場に有機物を施用する場合は未熟なものの施用を避け、タネバエの被害を防いでいる。	1			
	播種までに雑草が発生した場合は、種子の結実前に耕起耕耘を行っている。多年性雑草は、地下茎まで抜き取り、適切に処分している。	1			
	前作及びほ場での雑草の発生状況、草種等を確認し、適切な除草剤を選定し処理している。	1			
	害虫忌避効果のあるシルバーテープ等を利用し、害虫の飛来を防いでいる。	1			
輪作体系	集団化しているほ場では、地域全体で性フェロモン剤を処理し、交信攪乱による地域全体の害虫の発生密度抑制を図っている。	1			
	連作を避け、他作物や緑肥等の作付けによる輪作体系を組み、土壌病害の低減を図っている。	1			
病害虫発生予察情報の確認(必)	病害虫防除所が発表する発生予察情報入手し、確認している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入手し、防除の要否を検討している。	1			
病害虫防除の要否の判断(必)	ほ場内を見回り、生育初期から病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除の要否を判断している。	1			
生物農薬の利用	適用のある害虫に対して、BT(バチルス・チューリンゲンシス)剤やボーベリア・バシアーナ剤などの微生物農薬を有効に活用している。	1			
	適用のある病害に対して、非病原性エルビニア・カトボラ剤などの微生物農薬を有効に活用している。	1			
農薬の適正使用(必)	定植期に農薬を施用し、少量の薬剤でその後の病害虫の発生を有効に抑制している。	1			
	抵抗性の発達を防ぐため、特定の成分の農薬を繰り返し使用していない。	1			
	風の強さ・風向きに注意するとともに、散布圧力、散布の位置・方向、ノズルの選定を適切にし、隣壁作物の作付けなどとあわせて農薬の飛散防止に努めている。	1			
ほ場の衛生管理	軟腐病等の罹病株は放置せず適切に処分している。ウイルス病など回復困難な発病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。	1			
	細菌病の発生を抑制するため、降雨直後の作物管理作業を避けている。	1			
収穫後残渣の処理(必)	収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。	1			
作業日誌の記帳(必)	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。	1			
研修会等への参加(必)	県や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。	1			
		合計 点数			
		評価 結果			

群馬県レタスIPM実践指標

(普及指導室)

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
防除計画の作成(必)	栽培開始前に、年間の具体的な病害虫防除計画を作成している。	1			
健全種子の確保	病害発生予防のため、消毒されている種子を使用している。	1			
栽培ほ場周辺での雑草管理(必)	ほ場への雑草種子の持ち込みや雑草を発生源とする害虫の飛び込みを抑制するため、ほ場周りの雑草防除に努めている。	1			
健全苗の確保	セルトレイ育苗では、病害虫の発生を予防するため、病原菌に汚染されていない培養土や資材を用いている。育苗中に病害虫の発生が見られたら、早期に防除、除去し、健全苗のみを定植している。	1			
	健全な苗の育成のために、適正な播種量、施肥量を守り、育苗中は過度なかん水进行を避けるなど高温多湿にならないようにしている。	1			
	育苗施設や育苗ほ場への害虫侵入を抑制するため、施設開口部のネット被覆、粘着トラップの設置、シルバーフィルム等の反射資材の設置などの、物理的防除手段を講じている。	1			
ほ場の選択と改善	作物の栽培に適した水はけの良いほ場を選択している。排水の悪いほ場に作付けする場合は、高畦とする等対策を講じている。	1			
作物の栽培管理	必要に応じて土壌診断を受け、結果を参考にして適切な施肥を行い、過剰施肥を避けている。また土壌pHを測定し、適正な土壌pHに矯正している。	1			
	ほ場に有機物を施用する場合は未熟なものの施用を避け、タネバエの被害を防いでいる。	1			
	播種までに雑草が発生した場合は、種子の結実前に耕起耕転を行っている。多年性雑草は、地下茎まで抜き取り、適切に処分している。	1			
	前作及びほ場での雑草の発生状況、草種等を確認し、適切な除草剤を選定し処理している。	1			
	害虫忌避効果のあるシルバーテープ等を利用し、害虫の飛来を防いでいる。	1			
輪作体系	集団化しているほ場では、地域全体で性フェロモン剤を処理し、交信攪乱による地域全体の害虫の発生密度抑制を図っている。	1			
	連作を避け、他作物や緑肥等の作付けによる輪作体系を組み、土壌病害の低減を図っている。	1			
病害虫発生予察情報の確認(必)	病害虫防除所が発表する発生予察情報を入力し、確認している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報を入力し、防除の要否を検討している。	1			
病害虫防除の要否の判断(必)	ほ場内を見回り、生育初期から病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除の要否を判断している。	1			
生物農薬の利用	適用のある害虫に対して、BT(バチルス・チューリンゲンシス)剤などの微生物農薬を有効に活用している。	1			
	適用のある病害に対して、非病原性エルビニア・カトポラ剤、シュードモナス・フルオレッセンス剤などの微生物農薬を有効に活用している。	1			
農薬の適正使用(必)	定植期に農薬を施用し、少量の薬剤でその後の病害虫の発生を有効に抑制している。	1			
	抵抗性の発達を防ぐため、特定の成分の農薬を繰り返し使用していない。	1			
	風の強さ・風向きに注意するとともに、散布圧力、散布の位置・方向、ノズルの選定を適切にし、障壁作物の作付けなどとあわせて農薬の飛散防止に努めている。	1			
ほ場の衛生管理	腐敗病等の罹病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。	1			
	細菌病の発生を抑制するため、降雨直後の作物管理作業を避けている。	1			
収穫後残渣の処理(必)	収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。	1			
作業日誌の記帳(必)	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに依る栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。	1			
研修会等への参加(必)	県や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。	1			
		合計 点数			
		評価 結果			

群馬県露地ナスIPM実践指標

(普及指導室)

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
防除計画の作成(必)	栽培開始前に、年間の具体的な病害虫防除計画を作成している。	1			
健全種子の確保	病害の発生を予防するため、消毒されている種子を使用している。消毒されていない種子は農業の種子粉衣等の処理を行っている。	1			
適正な品種の選定	土壌病害の発生を予防するため、抵抗性が高い台木を作型と品質を考慮しながら選択している。	1			
健全苗の確保	病害虫の発生を予防するため、育苗には病原菌に汚染されていない培養土や資材を用いている。苗を購入する場合は健全苗を確保している。	1			
	健全な苗の育成のため、適正な播種量、施肥量を守り、育苗中は過度なかん水进行を避けるなど、高温多湿にならないようにしている。	1			
	育苗施設や育苗ほ場への害虫侵入を抑制するため、施設開口部のネット被覆、粘着トラップの設置、シルバーフィルム等の反射資材の設置などの、物理的防除手段を講じている。	1			
	育苗中に病害虫の発生が見られたら、早期に防除、除去し、健全苗のみを定植している。	1			
ほ場の選択と改善	作物の栽培に適した水はけの良いほ場を選択している。排水の悪いほ場に作付けする場合は高畦とする等対策を講じている。	1			
栽培ほ場周辺の雑草管理(必)	ほ場への雑草種子の持ち込みや雑草を発生源とする害虫の飛び込みを抑制するため、ほ場周辺の雑草防除に努めている。	1			
ほ場内への害虫侵入防止措置	交信攪乱による害虫の密度抑制を図るため、適用のある害虫に対して性フェロモン剤を設置している。	1			
	シルバーフィルム等の反射資材など、害虫忌避効果のある資材を設置している。	1			
土壌消毒	半身萎凋病、ネコブセンチュウ等の発生が懸念されるほ場においては、植え付け前に土壌消毒を実施している。	1			
対抗植物の作付け	ギニアグラス、クワタリヤ等を作付けし、センチュウ密度低下を図っている。	1			
作物の栽培管理	必要に応じて土壌診断を受け、結果を参考にして適切な施肥を行い、過剰施肥を避けている。また土壌pHを測定し、適正な土壌pHに矯正している。	1			
	植え付け前までに雑草が発生した場合は、雑草の種子結実前に除草を行っている。	1			
	マルチ等により畦面を被覆し、泥のはね上がりを防止している。	1			
	品種に応じた適正な栽植密度で定植している。	1			
病害虫発生予察情報の確認(必)	病害虫防除所が発表する発生予察情報入手し、確認している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報入手し、防除の要否を検討している。	1			
	ほ場内を見回り、病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除の要否を判断している。また必要に応じて粘着トラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握することで、防除の要否、防除時期を判断している。	1			
土着天敵の利用(必)	前作や近隣の作物、施設周辺における病害虫の発生状況を確認し、病害虫の発生を予測している。	1			
	防除の要否、防除時期の判断材料とするため、ほ場内における土着天敵類の発生・定着状況を定期的に確認している。	1			
農薬の適正使用(必)	バンカープラント(ソルゴー等)を利用し、土着天敵の定着を促している。	1			
	定植時には殺虫剤を施用し、生育初期の害虫発生を防止している。	1			
	作物の生育に合わせ、十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・散布方法を決定している。	1			
	風の強さ・風向きに注意するとともに、散布圧力、散布の位置・方向、ノズルの選定を適切にし、隣壁作物の作付けなどとあわせて農薬の飛散防止に努めている。	1			
生物農薬の利用	天敵に影響の少ない殺虫剤を利用している。	1			
	農薬を使用する場合には、同系統の薬剤を繰り返し使用していない。さらに、当該地域で薬剤感受性の低下または薬剤耐性菌が確認されている農薬は使用を控えている。	1			
ほ場の衛生管理	適用のある害虫に対して、BT(バチルス・チューリンゲンシス)剤やボーベリア・バシアーナ剤などの微生物農薬を有効に活用している。	1			
	適用のある病害に対して、バチルスズブチリス剤などの微生物農薬を有効に活用している。	1			
収穫後残渣の処理(必)	罹病株や果実、摘葉した葉等は放置せず、適切に処分している。ウイルス病、細菌病等回復が困難な病害による罹病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。	1			
作業日誌の記帳(必)	ウイルス病や細菌病の発生が懸念される場合には、発生を助長させないように器具、手の衛生管理を行っている。前作において病害が発生したほ場では、必要に応じて支柱などの用具を消毒している。	1			
研修会等への参加(必)	収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。	1			
	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。	1			
	県や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。	1			
		合計 点数			
		評価 結果			

群馬県露地ホウレンソウIPM実践指標

(普及指導室)

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
防除計画の作成(必)	栽培開始前に年間の具体的な病害虫防除計画を作成している。	1			
健全種子の確保	苗立枯病予防のため、消毒された種子を使用している。消毒されていない種子は農薬の種子粉衣等の処理を行っている。	1			
適正な品種の選定	地域に発生するべと病のレースを考慮して、抵抗性品種を選択している。	1			
栽培ほ場周辺での雑草管理(必)	ほ場への雑草種子の持ち込みや雑草を発生源とする害虫の飛び込みを抑制するため、ほ場周りの雑草防除に努めている。	1			
ほ場の選択と改善	作物の栽培に適した水はけの良いほ場を選択している。排水の悪いほ場に作付けする場合は、高畦とする等対策を講じている。	1			
作物の栽培管理	必要に応じて土壌診断を受け、結果を参考にして適切な施肥を行い、過剰施肥を避けている。また土壌pHを測定し、適正な土壌pHに矯正している。	1			
	ほ場に有機物を施用する場合は未熟なものの施用を避け、タネバエやコナダニの被害を防いでいる。	1			
	播種までに雑草が発生した場合は、種子の結実前に耕起耕耘を行っている。多年性雑草は、地下茎まで抜き取り、適切に処分している。	1			
	前作及びほ場での雑草の発生状況、草種等を確認し、適切な除草剤を選定し処理している。	1			
害虫侵入防止措置	品種に応じた適正な栽植密度としている。	1			
	ネット等により被覆を行い、アブラムシ等の害虫の侵入を防止している。	1			
	害虫忌避効果のあるシルバーテープ等を利用し、害虫の飛来を防いでいる。	1			
集団化しているほ場では、地域全体で性フェロモン剤を処理し、交信攪乱による地域全体の害虫の発生密度抑制を図っている。	1				
対抗植物の作付け	ギニアグラス、クロタラリア等を作付けて、センチュウの密度低下を図っている。	1			
病害虫発生予察情報の確認(必)	病害虫防除所が発表する発生予察情報入手し、確認している。また、フェロモントラップ等を用いて地域で予察を行っている場合には、その情報入手し、防除の要否を検討している。	1			
病害虫防除の要否の判断(必)	ほ場内を見回り、生育初期から病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除の要否を判断している。	1			
生物農薬の利用	適用のある害虫に対して、BT(バチルス・チューリンゲンシス)剤やボーベリア・バシアーナ剤などの微生物農薬を有効に利用している。	1			
農薬の適正使用(必)	抵抗性の発達を防ぐため、特定の成分の農薬を繰り返し使用していない。	1			
	風の強さ・風向きに注意するとともに、散布圧力、散布の位置・方向、ノズルの選定を適切にし、障壁作物の作付けなどとあわせて農薬の飛散防止に努めている。	1			
ほ場の衛生管理	べと病等の罹病葉は放置せず適切に処分している。ウィルス病など回復困難な発病株は、発見次第早急に抜き取って適切に処分している。	1			
収穫後残渣の処理(必)	収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分している。	1			
作業日誌の記帳(必)	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録している。	1			
研修会等への参加(必)	県や農業協同組合などが開催するIPM研修会等に参加している。	1			
		合計 点数			
		評価 結果			